

# 平成30年第4回東海村議会定例会行政報告等要旨

平成30年12月3日

おはようございます。

平成30年第4回東海村議会定例会の開会に当たり、行政報告等を申し述べさせていただきます。

はじめに、「2018年度全日本社会人ホッケー選手権大会」についてでございます。

去る9月22日(土)から26日(水)までの5日間、阿漕ヶ浦公園と県立東海高等学校を会場に、いきいき茨城ゆめ国体ホッケー競技大会のリハーサルとして「2018年度全日本社会人ホッケー選手権大会」を開催いたしました。全国から予選を勝ち抜いた社会人男女40チームが熱戦を繰り広げ、大会期間を通して約3,600名が来場されました。

大会会場の運営では、環境美化やおもてなし、案内、記録写真の撮影など、企業や一般村民、写真連盟、東海高校生の皆さん約150名のボランティアの協力を得たこと、ホッケー競技の運営では、東海中学校、東海南中学校、東海高校ホッケー部や体育協会の皆様に補助員として協力を得られたことから、円滑にリハーサル大会を開催できたものと考えております。

一方、地元茨城県のチームが出場する際には、会場が満席になるなどたいへんな盛り上がりを見せましたが、駐車場が混雑したことは国体に向けた反省点の一つとなったと考えております。

例年、国体のホッケー競技大会には15,000人を超える来場者があると聞いておりますが、来年の茨城国体は2020年の東京オリンピックの前年に当たることから、更に多くの来場者が見込まれるところですので、このリハーサル大会で得た知見を関係者でしっかり共有し大会運営に反映させるとともに、村民はもとより来村される方々にも喜んでいただける、そして出場される選手の記憶に残る大会となるよう、関係各方面と連携しながら取り組んでまいり所存です。

続きまして、国際親善姉妹都市である「米国アイダホフォールズ市への一般訪問団派遣」についてでございます。

去る10月5日から、私を団長としまして、村議会議員2名を含む計9名の一般訪問団が、アイダホフォールズ市を訪問し、レベッカ・キャスパー市長をはじめ、アイダホフォールズ市姉妹都市協会のオザキ会長など、多くの市民の方から温かな歓迎をいただきました。

滞在期間中は、旧交を温めるとともに、市長・議長への表敬訪問をはじめ、国立研究機関であります INL (Idaho National Laboratory) やボランティア活動施設、地元高校・大学などを見学したほか、市民楽団のリハーサルを鑑賞するなど、幅広い分野のプログラムを通じて、アメリカの文化や習慣などに触れ、見聞を広げる機会をいただきました。

また、今回の訪問では、姉妹都市交流関係をさらに深化させていくために、一般訪問団とは別のプログラムとして、オザキ会長が、私とキャスパー市長、さらに東アイダホ州地域経済開発のディナ CEO との面談の機会を設けてくださいました。

改めまして、今後のまちづくりの考え方や、様々な課題について議論することができ、今後の姉妹都市交流をより深めていくための「新たな交流への第一歩」を感じました。

次年度は、村からアイダホフォールズ市への学生訪問団派遣と、アイダホフォールズ市から村への一般訪問団来村を予定しておりますので、引き続き、国際親善姉妹都市の盟約に基づき、両市村の理解と友情を深めながら親善・友好を促進してまいりたいと考えております。

最後に、「第54回茨城県中学校駅伝競走大会」での東海中学校男子チームの優勝についてでございます。

去る11月9日、ひたちなか市総合運動公園陸上競技場を発着点とする周回コース、6区間18.879キロで行なわれた大会で、東海中学校男子チームが、59分16秒の記録で、1975年の学年別大会以来2度目の優勝を飾りました。

本駅伝チームは、今年1月の笠間市駅伝大会で磯原中に敗れ準優勝でしたが、その悔しさをばねに、補欠選手3名を含め、当日出場した6名の合計9名の選手が、日々厳しい練習に全力で取り組んできたそうです。一人一人が東海中学校の代表として、精一杯力を発揮し勝ち取った素晴らしい成果であると思います。

来る12月16日滋賀県野洲市で行われる全国大会では、東海村立東海中学校の名を背負っての出場になることから、村としても、多くの村民の皆様とともに心から応援して参りたいと存じますのでどうぞよろしくお願いいたします。

以上で行政報告いたします。